

らいてうの家

〒386-2201 長野県上田市真田町長 1278

℡fax : 0268-74-1385

NPO 平塚らいてうの会

〒112-0002 東京都文京区小石川 5-10-20-5F

℡fax : 03-3818-8626

## 秋の森のめぐみ講座開催

10月9日森のめぐみ講座（秋）が行われました。参加者は18名。笹刈を中心に庭の植物の刈り取りをしました。この時期の笹刈りは大変重要です。ビーバーも4台活躍し、鎌での作業も進み、どんどん庭がきれいになっていきました。

秋の草花は自然に枯れていきますが、笹だけは地下茎に栄養を貯め、雪の下でもしっかり育っています。春、他の草花は芽から成長を始めなくてはいけないのに、笹は地下茎の栄養を使って葉を茂らせて大きくなることができます。そして夏の間、葉を沢山茂らせ光合成をして、地下茎に栄養を貯めます。ですから土用のときに笹刈りをして光合成をする葉を刈り地下茎に栄養を貯めるのを抑える事が大事です。

今日の仕事は笹を見つけて刈り取る作業でした。皆さん腰をかがめて一生懸命作業してくださいました。アキノキリンソウやノコンギクもきれいに咲いていました。

作業終了後のお昼は、地元野菜いっぱいの温かいみそ汁等の提供があり疲れを取りました。話もはずみました。

（倉橋）



10日（月）は真田の里巡りの研修です。13名の参加者がありました。坂口益次先生に中心の講師をお願いしました。山家神社の押森宮司さん、長谷寺の宮下住職さんにもお話を伺いました。

山家神社は、四阿山頂を奥社とし、水を大事に守りながら地域に密着してきた事、現在も地域の核となり、地域をまとめる役割を果たしている（御柱祭の取組など）ことなどお聞きできました。



さらに、山家神社から15分ほど坂を登ったところに、長谷寺があります。らいてうの会が15年程前に、この禅寺で参禅させて頂きました。らいてうは、若い頃に参禅し見性したことに因んでのことでした。

雨が降りだしたので、お寺の立派な内陣で、23代目の若き住職にお寺の歴史をお聞きしました。2度の焼失により昭和53年に再建され、ご本尊はお釈迦様とのことです。

小さな真田の郷に、古くから続く、立派な社寺があるの

は、真田一族への人々の<sup>そんすう</sup>尊崇の念と誇りからだと思いました。（木村）



## 閉館のための作業に取り組む

11月1日(火)から3日間、大掃除、ワックスがけ、展示品収納の作業がおこなわれました。のべ40人近くの皆さんに参加していただきました。

水拭きをしたあと、床の汚れを石鹼で拭き取り、またこびり付きをはぎ取り、窓ガラス拭きも丁寧におこないました。ワックスがけでは、みなで並んで拭き残しのないように丁寧にみつろうワックスを塗りました。作業は大変ですが達成感があります。一年間の汚れを拭き取り来年に備える皆さんの姿は真剣そのものでした。



作業終了後、「きのこ汁付き昼食」をとりながら今年度の反省や、来年度の抱負など語り合いました。以下のような意見がありました。

○地元会員と、東京の皆さんとの交流ができることも楽しみのひとつ

○紀要14号を教材にして来年「らいてう講座」で学習会を持ちたい。

らいてう日記についても学習したい。

○来館者がたくさん来てくれるように、ニュースを会員外の人にも配る、ホームページを活用する等、積極的に取り組む。

○会員どうし研修をし、親睦を深めたい。

来年度も活発に楽しく活動したいです。

最後に水道、ガスの元栓を締め、玄関に雪囲いをして、閉館作業を終えました。来年の4月まで、お休みです。



### 来館者の感想

初めて訪れました。誘っていただき3人ではるばる長野市からやってきました。

緑が美しく、どの季節も楽しめる環境がすてきですね。らいてうさんの主張は現代に通ずることばかり。女性が自立して生きること、母性を保護する必要性、これらの発想があの時代にできること、驚きです。柔軟に諦めることなく願い続けること、強力なメッセージをいただきました。

このような山の中にすてきな建物が現れたときにはとても驚きました。大変なご苦勞の詰まった建築とお聞きしました。落ち着いた心のこもったお家でした。あいにくの雨でしたがステンドグラスの光が淡く伝わり、お部屋のストーブと重なって、暖かさを感じさせてくれました。また伺いたいです。 <らいてうの丸窓のぞく若葉かな> (Ta)